氏　　名	花岡　拓哉
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第３７１号
学位授与年月日	平成２４年３月２１日
審査委員	主査　教授　　本間　良夫
	副査　教授　　田島　義証
	副査　臨床教授　雫　　稔弘

論文審査の結果の要旨

肝細胞癌の腫瘍マーカーとしてα-fetoprotein(AFP)がよく用いられるが、その信頼性は高くない。近年、フコシル化された AFP(AFP-L3)の測定がより信頼性は高いとなっているが、微量の場合の測定法が課題であった。本研究において、慢性肝疾患症例における AFP の測定で、従来の方法では測定感度以下となる症例に対し，AFP の AFP-L3 分画を高感度で測定する方法を用い、その臨床的有用性を検討した。2009 年 6 月から 9 月までの間に当院を受診した慢性肝疾患患者の中で，総 AFP 値が 3-10 ng/ml であった 241 例を解析の対象とした。登録時に AFP-L3 分画の測定を行うと共に肝細胞癌の存在診断を行い，腫瘍マーカーとしての有用性を検討した。登録時に肝細胞癌を認めなかった症例を前向きに追跡し，発癌の経過を比較した。全体の 241 例中，60 例で AFP-L3 の測定が可能であり，この測定結果を基に receiver-operator curve を用いて至適 cut-off 値を求めた結果，値を 5.75%に設定することで感度 52.8%，特異度 86.8%と良好な肝細胞癌の腫瘍マーカーとなり得ることが示された。登録時に肝細胞癌を認めなかった症例について追跡した結果，AFP-L3 分画が偽陽性を示した群の方がより早期に肝細胞癌が検出される結果 ($p<0.01$)を得た。多変量解析の結果でも，AFP-L3 分画の上昇は肝細胞癌の早期検出における有意な独立した予後因子であった。以上の結果から、AFP 低濃度域の慢性肝疾患患者において高感度 AFP-L3 分画測定は肝細胞癌の診断に有用であり，肝細胞癌の早期検出に有効である可能性が示唆された。